

卒業生紹介

今回お訪ねしたのは1983年文教育学部地理学科卒の雨宮弘子さんだ。東京電力労務人事部ダイバーシティ推進室長として、2006年から女性活用の旗振り役として最前線で活躍している。

東電は、社員数3万8300人。うち、女性は4652人で約12%を占める。充実した両立支援制度もあって、女性の勤務年数は平均約17年と長い。しかし、一方で女性の管理職への登用は少なく、多様化する消費者ニーズや激化する市場競争に対応するために、具体的な施策が会社として急務となっていた。

東電初代ダイバーシティ推進室長に

そんな時、白羽の矢がたったのが、当時、米系化粧品会社エイボン・プロダクツで、パシフィックリージョン・セールスディレクターをしていた雨宮さんだ。初代ダイバーシティ推進室長のポストをオファーされた雨宮さんは、交渉にあたった担当者にこう尋ねた。「社員の殆どが日本人の会社で、どんなダイバーシティに取り組むのですか？」というのも、20年間勤めたエイボンでは、ダイバーシティといえば、主として外国人との付き合い方だったからだ。マーケティング部門で日本市場向けの製品を開発するときは、嗜好、商習慣、文化的背景が異なるアメリカ本社と粘り強く交渉してさまざまな壁を乗り越えてきた。一方で、エイボンでは男女差は全くなかった。個性的で輝くロールモデルも周囲に沢山いた。

外資系企業からの転身

外資系企業から保守的で固いイメージのある東電への転職。誰もが驚いた。「あんなに苦労してマスターした英語を捨てちゃうの？」と言った友人もいた。雨宮さんの背中を押したのは、「前任者がいないポストなんて面白そう!」という持ち前の好奇心だった。エイボンで、扱う分野を数字・製品・人と、社内異動の度に変えてきた雨宮さんにとって、ダイバーシティという新しい分野に飛び込むことに躊躇はなかった。多様性の推進という、会社にとって未知のエリアだからこそ、外部の未知の人に任せようという東電の期待に答えて、雨宮さんはこれまで誰もやらなかった新しい取り組みを次々に提案していく。わからないときは、先進的な他企業の担当者に話を聞きにいった。

実践的なマネジメントスキルを重視した女性管理職候補者研修、若手育成プログラム、育児

あめみやひろこ 雨宮弘子さん プロフィール

東京電力株式会社 労務人事部
ダイバーシティ推進室長

1983年お茶の水女子大学文教育学部卒業。ポーラ化粧品本舗勤務を経て、1985年外資系化粧品会社エイボン・プロダクツ株式会社入社。マーケティング・営業を経験し、トレーニング部長、人事総務部長、パシフィックリージョン・セールスディレクターを歴任。2006年から現職。キャリアカウンセラー（日本キャリア開発協会認定 CDA）



休職者の復帰支援などを実施しながら、男女ともに社員の意識啓発に継続的に取り組む。なかでも、2008年に策定した「業務付与ガイドライン」は、社内のすべての仕事を洗い出し、性差で仕事内容に差別が生じていないかをリスト化し、偏りがあれば改善を促すという画期的なものだ。

活躍の場を求めて

聡明そうな眼差しと理知的な話しぶりなのに、人を包みこむようなオーラがある雨宮さんは、社会学系の勉強がしたくて、都立高からお茶大の地理学科に進んだ。大学時代は、茶道部とフィギュアスケート部に所属。とりわけ、茶道は週2日の稽古に通うほど熱心に励み、30年経った今でも、大学時代に基礎を仕込んでもらったお陰で、一生の趣味を得たと感謝している。

卒業後は、女性が腰掛けでなく長く働ける会社に就職したいと思ったものの、当時、文系の大卒女子の募集など殆どなかった。たまたま求人あった3社を受けて、ポーラ化粧品へ入社。お茶汲み、コピー取り、手書きの清書などの業務を淡々とこなす日々。転機は、2年半後にやってきた。友人が外資系に転職。男女差がないと聞き、それなら私もと、新聞の求人欄で見たエイボンに応募し、数字に強い人という条件を見事クリアして採用される。

キャリアの転機のつかみ方

キャリアの転機には2つある。自分から動くときと、人から話があるときだ。雨宮さんは、そのふたつを巧みに活かしてきた。一回目の転職、そして、エイボン入社3年目には、社内公募に自ら手を挙げて製品企画の部署に異動した。

同時に、「評価は他者がするもの。やってみ

なければ良さも苦しさもわからない」と、与えられた機会をチャレンジにつなげる柔軟性と謙虚さも忘れない。

「若い時は、限られた情報を基に、自分の思いやこだわりで固執してしまいがち。自分に向いていないと思っても、やってみると潜在能力に気づき、道が拓けることもある」というのは、これから社会へ巣立つ学生への雨宮さんからのメッセージだ。

CSR（企業の社会的責任）について朝日新聞文化財団が2003年度に行った調査で「登用実績の男女平等」は最低ランクと評価された東電は、今年、均等推進企業部門で厚生労働大臣優良賞に輝いた。ダイバーシティに関しては後発組だった東電を、男女問わず誰もがチャンスと支援を平等に受けられる職場にしよう、雨宮さんは今日も模索しつつ、確実にその活動の裾野を広げている

文責：坪田秀子（学長特命補佐）

わたしのオフタイム
4年前から飼いだめた2匹の愛犬と遊ぶのが何よりの楽しみ。週末は、ご主人と連れだって、老後に住むつもりで伊豆高原に建設中の家を見に行く。ゆくゆくは、そこでドッグカフェを経営するのが夢だ。好きな言葉は“Nothing too late”。明日の私より、今日の私は一日若い。新しいことはいくつになっても始められる。